



太田典子さんの
不慮の死を悼む

本学低温センター事務補佐員、太田典子さんは、平成七年九月二日に交通事故のため亡くなりました。太田（旧姓上田）さんは、本学の理学部生物学科の出身者（昭和四十九年卒業）でもありました。謹んで哀悼の意を表します。

太田さんは、昭和六十二年から広島大学の事務職に就かれ、平成五年四月からは低温センターの事務に専念していただけていました。活発で明るく、しかも誠実な人柄と強い責任感で職務に当たられ、同僚の事務職員はもとより、研究者からも深い信頼と敬愛を集めておられました。

その太田さんが、四十三歳という人生でいちばんの活躍時期に、不慮の事故で帰らぬ人となってしまいました。低温センター関係者にとって、未だに信じられない衝撃です。ご遺族にとつてはいかばかりと、察するにあまりありません。

今となつては、ただ生前のお人柄を偲ぶことしかできないのは、誠に残念でなりません。せめて、御霊安らかに眠られんことを深くお祈りする次第です。

低温センター長 藤田敏三（ふじた・としぞう）

合掌



松浦誠 先生の
ご逝去を悼む

名誉教授松浦誠先生は、平成七年十月十二日午後十一時十六分、ご自宅で逝去されました。享年七十五歳でした。翌日の朝、ご逝去の報に接したただ驚き、言葉もありませんでした。

先生は、昭和十七年東京帝国大学工学部建築学科をご卒業後、昭和二十六年九月より広島大学講師として招かれ、土木建築工学科において建築構造分野の講義を担当されました。昭和三十六年からは工学部建築学科構造力学講座担当教授として、さらに昭和五十一年の工学部改組後は建設構造工学大講座建築防災学担当教授として務められました。

昭和五十八年のご退官までの三十二年有余にわたり、教育・研究にたずさわってこられました。その間、中国地方の数々の地盤図を完成され、それらの業績に対し中国文化賞や勲三等旭日中綬賞が授与されました。

本年三月末、先生の専門の地盤・基礎関係の相談でご自宅に伺い資料を頂き、次回はまた秋ごろに連絡し伺う約束をしておりましたが、それもかなわぬこととなり、残念でなりません。

どうか、安らかにお休みください。

国際協力研究科開発技術講座

山本春行（やまもと・はるゆき）



レクイエム

夏に咲き誇る真っ赤なカンナの花、汽車通勤の窓辺から教えてもらった曼珠沙華の群落、花は真っ赤な赤、酒は辛口、タバコは両切りのピース、歌は怒涛の譜、常に妥協のない姿勢、曖昧模糊としたジレットタントを嫌い、単刀直入でシンブルでドラステックな行動を潔とした岡 智先生は、十一月二十二日永眠されました。享年六十六歳。

先生のライフワーク中の第三のアレルギー、スギ花粉アレルギーのワクチン作製の研究に取りかかったばかりの時でありました。

昭和四十年に、先生は醗酵工学科助教として着任され、昭和四十五年に教授に昇任され、それと時を同じくして先生の生涯の研究テーマとなるアレルギーの研究が始まりました。

ホヤアレルギーの原因物質を解明し、その治療薬を見つけた、抗原のエピトープの構造まで明らかにされました。さらに「ハウスダストアレルギー」の研究に取り組まれ、たくさんのダニアレルゲンの構造を決定し、治療に役立つ抗原を有効利用し始めました。

広島大学退官後は、女子教育に専念するのだと言っておられました。中国文化賞を貰われた頃から長年培われた研究心止みがたく、スギ花粉症の研究を始められたところでした。

先生の仕事に対する真摯な姿勢は、訓示を受けたたくさんの教え子の中に脈々と受け継がれております。岡先生の御霊のやすからんことを祈念します。

合掌

工学部発酵工学講座 重田征子（しげた・せいこ）